

石狩市立小中学校で公費化されている教材・消耗品の調査（コメント欄まとめ）

2 公費化に向けて意識していること、あるいは失敗したこと。

- 財政基盤を安定させることが最重要課題。そのために項目品目による業者選定等、どれだけ消耗品を安く手に入れるかが1つのターニングポイントになると思う。
- 常々保護者負担をなくすことをアナウンスすることで職員の意識が違ってくると思う。
- 最後はペーパーレス化だと思う。
- 単価の低いものから順次公費購入に切り替えた。今まで予算消化のために買いためたものがかかなりあったがよく確認しないまま購入してしまった物もあるのでもったいなく感じた。
- 一度公費化した品目については、保護者負担に戻すことにならないように考慮している。
- 校内予算配分で学級消耗品費を予算化して、半紙、画用紙等を購入している。今年度から学級消耗品費を各学級 10,000 円から 15,000 円に増額。
- 現状より保護者負担が増えないように努めている。
- 教科担当と話し合い、保護者から徴収する金額を最小限にしている。
- P T A 会費の使途も含めて見直しています。
- 専科の教員でない人が担当する教科では、保護者負担を減らすことはすぐにできるが、専科の教員だと「足りない」と言われてしまう。
- 年度初め（人事異動による）に毎年保護者負担の公費化に関わる話を教員にしているが「負担するのが当たり前ではないこと」を認識させることがとても面倒だ！！。
- 輪転機で A4 原稿を 2 枚にして A3 印刷し電動裁断機で裁断。（マスターの節約）
- 運動会用ピンの再利用
- 裏紙の積極的な活用
- 新規で購入する消耗品や庁用備品の見積は必ず複数の業者に依頼する（あたりまえなこともありますが一応・・・）
- テスト、ワーク以外のものは全て公費化にしました（あさがおセット、理科キット教材、図工キット教材 等）

3 公費化が難しい理由

- 生徒数の多さから困難である。一旦公費化したら継続しなければと考えるので、できるのか不安があり、なかなか踏み切れない。
- 今年度異動してきたばかりで予算についての把握が難しいですが、来年度に向けて公費化をすすめるための準備をすすめていきたい。
- 教員の保護者負担軽減の意識が低い。
- 保護者が学校諸費の金額に対して意見を言いにくい。
- 作品として持ち帰ることが明らかなものでも、公費として支出する方法はあるのでしょうか。
- 配分予算が少ないため、公費で購入するのが難しい。
- 元々の財源は、他市に比べて少ないため、厳しいなど思うところはある（前任者ががっちり保護者負担の公費化に向けた取り組みをしていたお陰で、今できているところはあります）。
- 項目ごとに公費化するとなると、かなりの金額の余裕を持たせる必要があり、なかなか踏み切りがつかない。用紙代や印刷消耗品費は教職員全体で協力し抑えられてきているが、教職員の働き方改革に関わる新たな支出項目が増えるなどし（プリントフリー5台体制）公費化が思うように進まないのが現状。次年度は 3.4 年生の種類と半紙の公費化を実施する（あるいは算数セットのとけいの）予定だ

が、その分の予算確保ができるかがカギ。

- 児童生徒の口に入るものや個人に帰るものは市経理から出せない中で、これ以上の公費化は難しいです。生徒数が少なくなる中で、調理実習費の一人当たりの単価が高くなり、市経理から補助してほしいとの要望があります。

4 その他

- 教職員1人1人考え方が違うので丁寧に説明する事や諦めずにアナウンスすることが必要だと思います。学校で経費についてしっかり言えるのは事務職員しかいません。それこそが経営参画の最重要事項だと思います。
- 学校で様々な活動を行うにあたって、コスト意識や費用対効果の視点から意見を言えるのは事務職員だと意識をもって物事にあたりたい。
- 調理実習の食材等、児童生徒に還元されるものや、児童生徒個人の所有に係るものは公費負担できないことから、そろばんや電卓を学校保管教材とすることで保護者負担軽減に努めてきましたが、今後は、消毒の必要性を考えると用具や物品の共用を避けるため、個人所有が望ましいのだろうなど…。新たな悩みも多いですが、新たな発想で対応していくために、学校間での情報交流や連携がより一層必要になってくると思います。
- 予算執行の把握に努め公費化をすすめていきたい。
- 学校運営に支障が出ないように印刷経費等の節約を行うことで、学級消耗品費として予算計上をしているのが現状であり、これ以上の公費化は学校配当予算の増額が行われな限り難しい。
- 要望を出すことは簡単ですが、本来はそのひとつひとつについてしっかりと精査する必要があると考えます。特に理科や図工の実験実習費は担当の先生により必要とするものが異なり、どのような意図で必要なのか、安価なものや学校で用意できるものではダメなのか、検討すべきだと思います。
- 昨年度から、教材費の見直しをした。
- 各学年 10,000 円の予算を付けて、用紙やシール等、学年全体で使用するものの購入に充てている。(半紙、画用紙、工作用紙、版画用紙など)
- 修学旅行の費用を下げる事を考えていく必要があると思う。
- 保護者負担の公費化について、管理職のリーダーシップも重要ですが、先生方に理解をしていただけたらもっと進めやすくなるのかも、と最近思います。学年会計の先生へも事務が関わられるようになってきたので積極的に働きかけを行っていききたいし、そういう関係を職員が変わっても維持できればいいと思います。

5 研究部の見解

- ・ 調査結果については、単純に公費化しているからよいなどと比較できるものではない。しかし、毎年各校の状況を交流することで自校での実践のヒントになると考える。
 - ・ さらに、次年度に向け、予算要望の調査と合わせて1度の調査で網羅できるように、と考えたとき調査項目の改善と検討が必要となる。(例：小学校の調査項目には幹旋教材を入れる。何年生で買うのか記入してもらおう。中学校の教科消耗品と教科実習費の項目を分け内容をわかりやすくする。備考欄は毎年見直しをしてもらい最新の情報を入れる。など)
- 今後予算要望部と調整しながら、上記の目的を果たせる調査用紙を作成したい。

調査へのご協力、ありがとうございました。今後ともよろしくお願いします！